

学生と教員の 見方



【ポイント】

東京都出身で実家が不動産業を営んでいます。子ども時代から親の背中を見ながら後追いつるために日々頑張っています。

なんとこれも業務効率化であらう。例えば、不動産分野で現在導入されつつある、ChatGPTを活用した相談・問い合わせ対応システム、不動産用易学システム、不動産用易学システムで看過している点が2つある者は、産業革命時に多くの仕事がなくなったが、その後より多くの新しい仕事が誕生したじゃないかと反論する。しかし、こ

【学生の見方&考え方】

(3年 宮原優太郎)

最近のテレビニュースでは、AIに関するニュースが一日も欠かさず毎日のように取り上げられている。

このような背景には、AIの普及は社会のさまざまな分野に影響し、我々の生活を大きく変える可能性が秘められているからである。

例えば、10年以前の2013年にオックスフォード大学で発表されたある研究論文では「10年〜20年後には47%の仕事がAI（人工知能）に取って代わられる」

と発表し、世界中に衝撃を与えたことが真新しい。

前述のようなAIの社会

学生から見た不動産業界の第四の波②

全般への影響の中、特にA-Iが不動産業に及ぼす影響について考えてみたい。不動産というのは、各個人にとって財産上の大きな比重を占めるもので、多大な資

金、類似取引例との比較と相場価格の算出、契約書の作成、契約のリーガルチェックなど）がA-Iの産業界のさらなる革新をもたらす重要な技術であることは間違いないだろう。

テム、顧客マッチングシステムなどのように、ネットワーク上に散らばっている知識や経験を活用した集合知によって、多くの知識労働者の業務は、少人数により短期間に回復したようにみ

料収集や精緻な法的チェックが欠かせない。このような不動産の特性は、AI

AIの活用で効率化

物件購入プロセスや膨大な資料検討

導入のメリットが大きい。産業界の様々な分野でこの【教員の展開】

例えば、住宅購入のためにようなAI技術が導入さ（表明榮教授）

物件を調べようとする場合、物件購入に関わる複雑なプロセスや膨大な資料の検討（相談や問い合わせ、掲載物件からの候補物件の圧縮、候補物件の状態や都市計画などの法的制限のチェック）など、法的制限のチェックが難しい。AIの活用で、AIが不動産業全般に与える影響は、現在我々が持っている経験や知識が持っている限り、計り知れないものになる可能性が高い。

くれる方策となることは間違いないが、その分、多くの知識労働者の役割を急減させることとなる。また、長年蓄積した経験と勘を持って仕事を確立した専門職の活躍場所も狭くなっていくだろう。